

権田金属工業

マグネ建材生産強化

曲げ加工設備年内導入

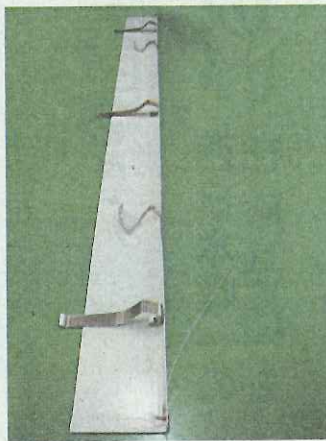
太物黄銅棒や銅棒、マグネシウム板を製造する権田金属工業（本社＝相模原市中央区、権田源太郎社長）は、年内にマグネシウム建材用の加工設備を導入する。導入するのはエキスパンションジョイントと呼ばれる耐震用建材の曲げ加工設備で、導入費用は約4000万円。軽量でアルミ並みの強度もあるマグネ合金建材の需要は今後伸びるとみており、生産体制の強化を図る。

耐震用引き合い増加

同社は双ロール铸造法という独自の製造方法で難燃性のマグネシウム合金板を製造。建築用金物の販売や施工を手掛けるアサヒサンコー（本社＝相模原市）が、権田金属のマグネ

合金AZX612で作製した吊り天井用エキスパンションジョイントは、2013年に国土交通省の不燃材料認定を取得した。このマグネ合金は、比重がアルミの3分の2。また強度があるため薄型化が可能で、実際の製品重量はアルミ

製の半分程度に抑えられるという。エキスパンションジョイントを手作業で取り付ける際



エキスパンションジョイントを使ったマグネ合金板

現在は外注業者でベ

に作業者の負担が軽減され、現場の作業効率改善にもつながる。開発から2年半が経過し、マグネ合金エキスパンションジョイントの引き合いは徐々に増加。今後のさらなる採用拡大に手こたえを感じており、生産体制の強化を決めた。これまで板の製造しか手掛けていなかったが、部材への加工も自社で行う。

ンダーによる曲げや溶接により部材加工されているが、同社はロール成形による曲げ設備を特注する予定。国の「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」の対象事業にこのほど認定され、費用の3分の2は助成金を受けられる。

マグネ合金エキスパンションの直近の販売状況は月平均すると1000本程度だが、設備導入後は1000本程度まで自社で対応できるようにになるとみている。母材となる板の製造も、3月まで国の助成を受け行ってきた薄板量産技術開発の取り組みにより生産能力が上っており、増産にも対応できる。

今後の需要拡大を図るうえで、「販路を拡大していくことも重要」（権田社長）。アサヒサンコーとも協力し、有力な建材業者などでの採用を取り付けていきたい考えだ。